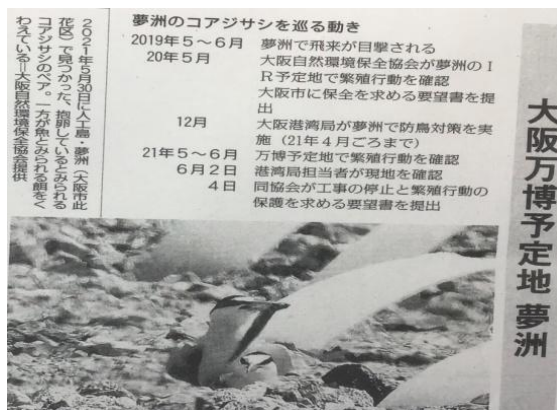


大阪万博予定地 夢洲とコアジサシ

写真は毎日 16 日夕刊から。2025 年大阪・関西万博の会場予定地となり、埋め立て工事が進む大阪湾の人工島・夢洲（大阪市此花区）で 5～6 月、絶滅危惧種に指定されている海鳥・コアジサシの繁殖行動を、公益社団法人「大阪自然環境保全協会」（同市北区）が 2 年連続で確認した。昨年は鳥の群れや卵が見つかったが、ひなが育つ前に親鳥が飛び去ったという。今後も産卵する可能性があり、大阪府・市で共同設置する大阪港湾局は「専門家と相談しながら慎重に保護に務めたい」としている。

夢洲のコアジサシを巡る動きによると、2019 年 5～6 月、夢洲で飛来が目撃される。20 年 5 月、大阪自然環境保全協会が夢洲の IR 予定地で繁殖行動を確認。大阪府に保全を求める要望書を提出とある。

写真下は毎日 2019 年 6 月 11 日夕刊 1 面。「夢洲 動植物の夢の島」というタイトルで夢洲の生態系について伝え、大きな反響を呼んだ。じつは、記事の 1 ヶ月前に大阪自然環境保全協会の皆さんの案内で、夢洲に初めて上陸した。万博と IR=カジノのための夢洲の埋め立て、動植物の生態系について考えさせられた。



昨年に続いて、夢洲で絶滅危惧種に指定されているコアジサシの繁殖が確認されたことを知り、2005 年の愛知万博を思い起こす。愛知万博は当初、瀬戸市南東部の里山、「海上の森」が会場予定地であった。1999 年 4 月、万博と地域整備事業の環境アセスメント「準備書」への市民意見が締め切られた直後、絶滅危惧種であるオオタカの営巣とつがい海上の森北部で発見された。これを契機に、万博会場の縮小・見直しが始まり、紆余曲折を経てメイン会場は愛知青少年公園に移ることになった。大阪・関西万博のアセス「準備書」提出を前にして、絶滅危惧種であるコアジサシ繁殖に注目したい。

(2021 年 6 月 20 日)